

2008年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部 教授 氏名： 山下 高行
研究テーマ	福祉国家変容のもとでの青年価値観の国際比較

<b>I. 国際連携先の概要</b>	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) (代表者) (プロジェクト名)
共同研究機関	(名称) ランカスター大学先端科学研究所 (代表者) ポブ・ジェソップ教授、(名称) ヴェクショー大学社会学部 (代表者) グレン・シュフェールド教授、(名称) 韓国中央大学大学院社会学研究科 (代表者) 申 光榮教授
<b>II. 研究計画の概要</b> 今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
<p>本研究は、現在のグローバル化のもとで進む、戦後福祉国家の揺らぎの実態を解明するものである。戦後福祉国家は新自由主義が浸透する中でどう変化しつつあるのか。また、同時にその限界が見えつつある中で目指されるべき次の新たな社会を支える価値観とは何かを研究することを目的としている。この課題を果たすために、新自由主義化が進められてきたイギリス、それとは距離をおき戦後福祉国家のあり方を維持しようとしているスウェーデン、またきわめて親密な人間の絆(儒教的世界のなかで)を築いてきたにもかかわらず新自由主義が浸透する中で悩む韓国、それに日本において調査を行った。本研究は産業社会学部を主とした各国機関との教学提携の推進を含んで展開したが、この中には院生(International Junior Symposium) 学生(海外スタディ等、社会調査プログラム)との交流を含み、院生、学生を巻き込んだ研究を特徴とした。</p>	
<b>III. 研究成果の概要</b> 今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>本研究プロジェクトは意識調査を主眼としていたが、研究の展開の中で敷衍的に新自由主義的なグローバル化の中で現れている格差の実態調査とその中でセーフティネット形成の一つとして現れているボランティア活動の動向研究も含んだ、総体としての福祉レジームの今日の変化を多方面から照射するものとして展開された。また韓国を中心とした海外研究者とのネットワーク形成が進んだことも成果としてあげられる。以下の研究活動を行った。スウェーデンをフィールドに行われた、「スウェーデンの福祉国家政策の変容」についての聞き取り調査、と研究者間の意見交換、院生を含みソウルをフィールドに日韓共同の取り組みとして「引きこもり、ホームレスなどを対象とした社会病理の様態調査」、ソウル大で行われた「ボランティアの現状と動向」についての共同研究会の開催(韓国、カナダ、日本研究者参加)。</p> <p>また研究交流。および院生も含んだネットワーク形成として以下の活動を行った。ハーバード大エイチン研究所元副センター長、エド・ベーカー教授との今日のアジア社会研究をめぐる動向についての研究会の開催。韓国中央大学との院生交流研究会の開催。社会学研究科と韓国中央大学との院生交流研究会は2007年2月11,12日韓国中央大学にて総括テーマ「今あらためて豊かさとは何かを考える」を設定し開催されたが、これに関わる事前準備と研究テーマの設定を上記研究活動と併せて行った。今回で三回目の開催になり、本プログラムを活用した重要な成果の一つと言える。(尚、大会開催経費等は中央大学を主とした他ファンドを活用した。) 韓国中央大学と社会学研究科はDMDPの締結を行ったが、本プログラムは研究交流を通してこの締結に尽力した。このことも成果としてあげることができる。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。